

《第 8 号》「グリーンコンシューマーの心」

和田 正江(主婦連合会会長)

十数年前、買い物袋を持っていたのでデパートで「袋は要りません」といったところ、「万引きと間違われても知れませんよ」としつしつ商品にシールを張ってくれました。レストランで持参している箸を使っていると、冷ややかに奇異の目で見られました。今日やっと好意的な視線に変わりました。

先日、30 年近く愛用の洗濯機がついにダウン、ちょうど知人が事務所で十年ほど使った洗濯機が不要になった由、容量もちょうどよく、時々タオルを洗っただけとのことで新品同様、早急いただいて好調に運転中です。今度は私の寿命といい勝負でしょう。昨今、電気製品が「エコ使用」とか水道代・電気代が毎月〇〇円安くなると宣伝し買い替えを進めますが、新製品の開発にかかるコスト、古い製品を処分するエネルギー、コストを考えれば、やはり手持ちの品を大事に使うのが基本ではないでしょうか。

明治生まれの母は着物で過ごし、針仕事が大好きで着物を縫い直したり、半てんやクッションなどを作ってくれました。古いものをしまい込んで閉口しましたが、ある日古着や布を捨てるよう頼まれました。ふと見ると、きちんと結んだ紐に挟んだ紙に「さよなら」とあります。長い年月愛用し、使いまわしてきた布に対する母の愛情と惜別の念に、文字が涙でかすみしました。

以上